



センターからのお知らせ



近年、奄美大島と徳之島ではアズミノクロウサギの交通事故による死亡が増えています。交通事故を減らすため、移動式看板や道路進入防止ネットなど様々な対策をおこなっておりますが、1番の近道はみなさんが夜間の運転に気をつけることです。

島の希少な生きものたちを守るために皆様のご協力をお願い致します。

2022年アズミノクロウサギ死体確認数

奄美大島	交通事故 107件	アズ・ネコによる捕殺 15件	※不明死体の捕獲がひどく、死因が特定できなかったもの
その他・不明	45件		この中にも交通事故やアズ・ネコによる捕殺が含まれると思われます。
徳之島	交通事故 40件	アズ・ネコによる捕殺 13件	※未検出も含まため、件数は変更する可能性があります。
その他・不明	17件		



まだまだ交通事故が減らないよ・・・
もっと安全運転の意識が広がればいいな。

環境省が事故多发道路に設置している移動式看板上部に回転灯を設置し、より目立つようにしました。



現在は宇検村の須古〜部連間、網野子トンネル名瀬側、和瀬旧道に設置されています。この看板を見かけたら、車の速度を落として道路にアズミノクロウサギが出てきていないか注意をお願いします！

回転灯はソーラー発電式で日中充電、夜間に点灯し、フラッシュに注意を促します。

※アズミノクロウサギの死体や傷ついた個体を見かけたら奄美野生生物保護センターまでご連絡ください。

今季の一枚「希少種 トリガミナカソアオイが開花しました！」

今季の一枚はトリガミナカソアオイの花です。トリガミナカソアオイは奄美大島の固有種で、本来は限られた森の林床にひっそりと生育します。写真の花は保護センターで保護している株で、この数年ぶりに開花しました。

トリガミナカソアオイの花色は黄緑色・乳白色・緑紫色など株によって多様である。花の形も変わっていて、写真のように長さ約1cmの壺型の花を根元に付けています。実はカソアオイの仲間の花には花弁（花びら）はなく、カクと言う器官が発達したものです。



これが花です（正確にはカク）



開花するトリガミナカソアオイ

奄美の風だより

センター&協議会 News

絵画展 国立公園5周年記念副賞「やんばる研修」へ行きました

2022年12月25日〜27日第23回やせいのいきもの絵画展の副賞として、沖縄県北部（やんばる地域）に研修へ行きました。参加者は第2回絵画展において、「国立公園5周年記念特別賞」を受賞した小（高学年）・中学生10名です。今年度絵画展は奄美群島が国立公園に登録されて5周年の節目という事もあり、奄美・やんばる広域圏交流推進協議会との共催で、このような豪華な研修旅行が実現しました。研修では現地の小中学生と合流し、どちらも世界自然遺産登録地である奄美とやんばるの自然の違いや共通点などを一緒に学習しました。またやんばる野生生物保護センター訪問や、現地のガイドさんにやんばるの森を案内してもらった「ガイドウォーク」等を通し、座学だけでなく実際にやんばるの自然とふれあうことで、子供達にとって非常に有意義な学習の機会になったはずです。



→ ガイドウォーク風景



→ クラッシュボード風景

現地（東村）の小中学生12名と合流し、3班に分かれて行きました。ガイドさんの案内でやんばるの森内の散策コースを2時間ほどかけて歩きました。

ガイドウォークを振り返って、感じたこと・学んだことを班ごとに話し合い、全体に発表しました。子ども達の自然観察の視点が様々で大人側も気づかされることも多かったです。



授賞式集合写真（保護センターにて）

12月18日（土）に絵画展授賞式を行いました。今年度は例年以上の応募・受賞者数で、とても豪華なイベントになりました。

授賞式後、受賞作品をバックにみんなで記念撮影をしました。

来年度も多数の応募をお待ちしています！

授賞式集合写真

奄美群島市町村だよ!

自分たちの地域の魅力を再発見し、また他の地域のことを知り、奄美の自然について理解を深めましょう。

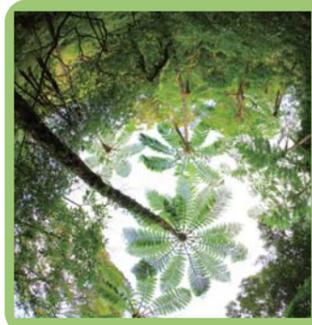


今回は
奄美市
です



奄美市は名瀬・住用・笠利の3地区で構成され、亜熱帯照葉樹林やサンゴ礁が広がる海岸など豊かな自然と都市機能を有します。

奄美市の木 「ヒカゲハコ」



ヒカゲハコはシタ類の仲間で、奄美の亜熱帯の深い森を最もよく象徴している植物です。まるで古代のジヤングルを思わせるかのようです。



土盛海岸(笠利町)

おすすめの観光名所「奄美大島世界遺産センター」

2022年7月26日に奄美市住用町のアソクローブパーク隣に、奄美大島世界遺産センターがオープンしました! センター内には、奄美大島の森とそこに棲む生きものを実際にフィールドを歩いているように体験・観察することができ再現実フィールドや、奄美大島の自然を守るための取り組みやフィールドを学ぶことができ展示コーナーなどがあります。とても素晴らしい施設なので、ぜひ一度足を運んでみてください!



遺産センター外観



遺産センター内観



Frat 店内の様子

[Frat]とは、遺産センター内にあるミュージアムショップです。環境に配慮した商品や、奄美大島の伝統工芸「泥染め」を用いた商品も取り扱っており、ここだけでしか販売していかない商品も多数あります! お土産に是非いかがでしょうか?

いきものふしぎ ~ コウモリのお話し ~

みなさんは「コウモリ」を見たことがありますか? 夜に活動することから、気に留める人は少ないかもしれませんが、現在9種類のコウモリが確認されており、ここでは奄美群島に生息するコウモリのうち、6種を写真とともに紹介します。わきやあまみ21では「奄美群島のコウモリ」を題材にして、全種掲載しています。保護センターでも配布しているのではないので是非手に取ってください。



オウコキカガシラコウモリ

奄美群島の全ての島に生息し、最もよく見かける種。呼ばれる特徴的な器官がある。国内希少野生動物植物種



リュウキョウゴビナガコウモリ

奄美大島・徳之島・沖永良部島に生息し、洞窟などへねらにしている。名前の通り中指が長い。主に1/3種類を好んで食べる。国内希少野生動物植物種



アソクコウモリ

奄美大島・喜界島・徳之島に生息し、家屋をねぐらにする。奄美大島ではかつて多く見られたが、エサの昆虫が減り、数を減らしている。



ヤンバルホオビザクコウモリ

1996年に沖縄島で発見・新種とされ、1999年に徳之島、2000年に奄美大島で発見された。黒い毛と細くとがった耳が特徴。国内希少野生動物植物種



モモジロコウモリ

奄美大島・徳之島に生息し、トンネルや炭焼き窯跡などをねぐらにしている。クモ類を好んで食べる。アソクコウモリと同様、普通種。

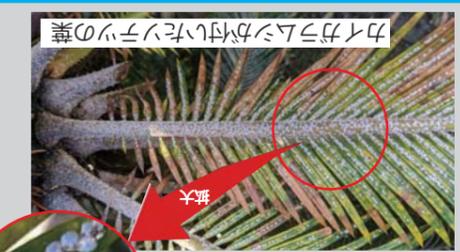


オウノオコウモリ

沖永良部島・与論島に生息している。夜活動し、果実類や花・葉などを食べる。写真は民家の裏で交尾をしているところ。高い絶海の危機に直面している種



被害にあったソテツの木



カイガラムシが付いたソテツの葉

ソテツといえば奄美を代表する樹木の一つですが、実は昨年秋より奄美大島のソテツが深刻な事態に直面しています。その要因は「カイガラムシ(Aulacaspis yasumatsui)」と呼ばれるカメムシの仲間の昆虫です。カイガラムシは海外でソテツの害虫として知られており、その中でも「CAS(キヤス)」と呼ばれる種が何らかの原因で奄美大島に侵入し、現在島内で被害が拡大しています。特に被害が目立つのが龍郷町・奄美市名瀬で、同地区ではカイガラムシの付着が確認されるソテツの葉を全て切除するなどの対策を進めています。

ソテツのカイガラムシ被害の主な特徴として、

- ・葉や幹、芽などに白いカイガラムシが多数付着
- ・カイガラムシに吸汁され、ソテツの葉が黄化
- ・被害がひどいと、最悪ソテツ本体が枯死する可能性がある

などが挙げられます。今後島内で急激な増殖、分布の拡大が懸念されますので、早急な対策が必要になります。具体的な対策として以下が挙げられます。

- ・被害にあった葉は切り落として処分(ビニール袋に入れて燃えるゴミへ)
- ・剪定後樹全体に薬剤を散布し、こまめに様子を観察する
- ・被害地周辺のソテツは健全であっても、冬には葉の剪定を行う
- ・カイガラムシは主に風や人などに付着して分布拡大するので、作業時に衣服に付着しないよう注意

これ以上島内に分布を広げないよう、剪定など各家庭でできることへの協力をお願いします。

ソテツのカイガラムシ被害について

写真提供: 水元 侑奈氏(ソテツの写真)、ウツモリ写真(ウツモリ写真) 参考文献: ソテツのカイガラムシ被害(鹿児島県森林技術総合センター)、外来種カイガラムシの被害(奄美新聞社、わきやあまみ21)